平成21年度
全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

Ⅰ　実施の状況

１　実施目的　　児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
２　実施学年　　小学校6年　　中学校3年
３　実施教科　　国語　　算数・数学
４　調査内容　　①教科に関する調査（国語、算数・数学）
　　Ａ:「知識」など基礎学力を問う問題
　　Ｂ:思考力など「活用する力」を問う問題
　　②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
　　○児童生徒に対する調査　○学校に対する調査
５　実施期日　　平成21年4月21日（火）
６　参加状況　　小学校　21，643校　（全体の99．3%）
　　中学校　10，258校　（全体の93．6%）

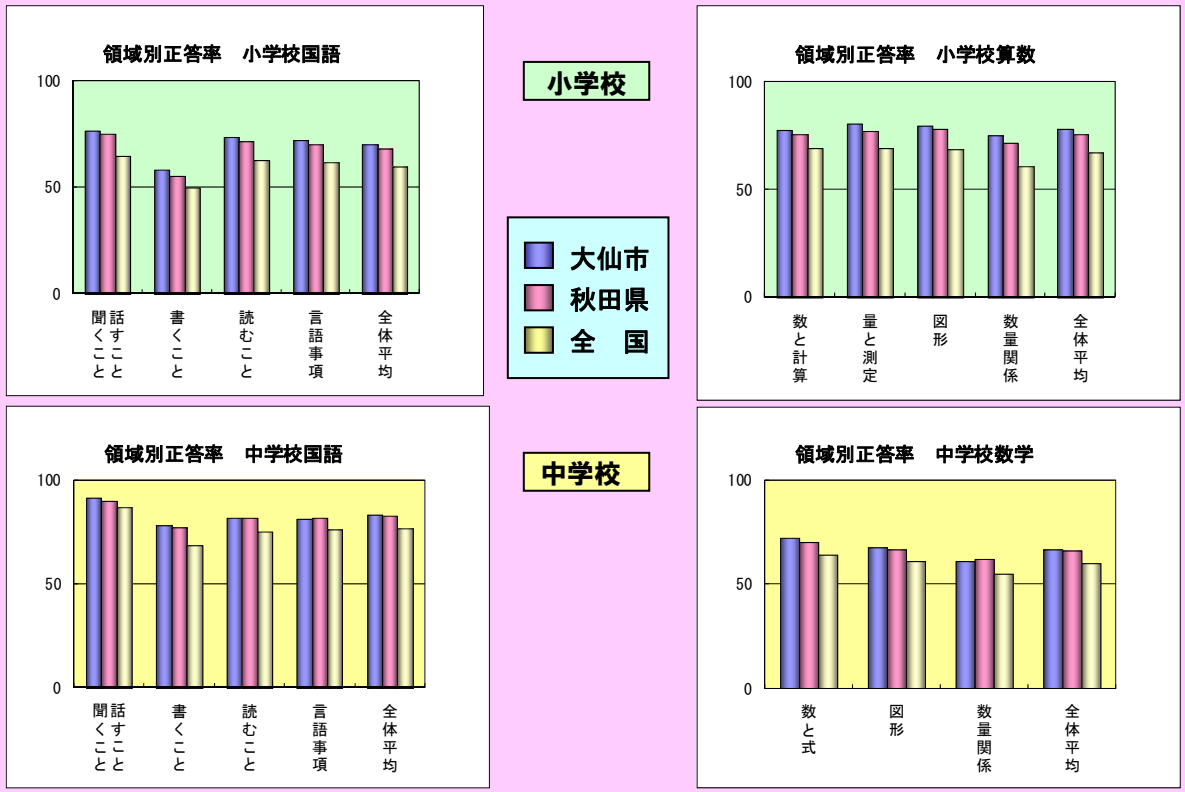
Ⅱ　教科に関する調査の結果

１　概要

○本県は、小・中学校ともに各教科で全国の平均正答率を５ポイント以上上回っている。本市においては、小・中学校すべての教科で県平均正答率を上回っていることからおおむね良好な状況を引き続き維持していると考えられる。
○「活用」に関する問題においても全国や県の平均正答率を上回っており、知識・技能等を活用する力や課題を解決する力を育む授業改善が進んでいると考えられる。

（１）結果

【資料１】領域別平均正答率の結果



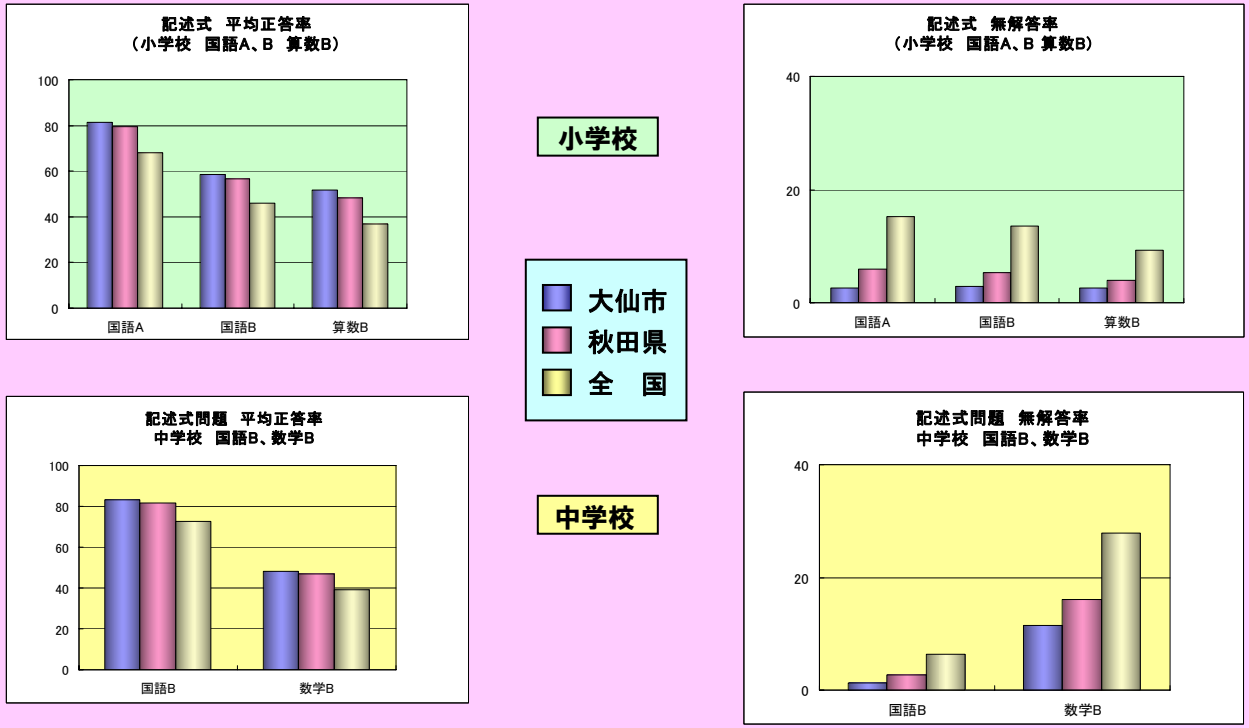
Ⅲ　教科に関する調査結果の考察

1　傾向

◎学力の下支えとなる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

〇無解答率が低い。
〇記述式の問題でも正答率が高い。
〇学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ない。

【資料２】記述式問題　平均正答率・無解答率比較



Ⅲ　教科に関する調査結果の考察

２　要因

①　児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

・児童生徒は基本的な学習習慣を身に付け、進んで意見を書いたり、発表したりするなど意欲的に学習に取り組んでいる。
・難しい問題にも時間いっぱい取り組んでいる児童生徒が多い。

②　児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

・基礎テストや、放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
・ティームティーチングや少人数指導などの効果が表れている。

③　各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

・継続的な読み聞かせや読書活動を推進している。
・小学校における教科担任制の導入、幼・小、小・中、中・高、小・高など異校種間の連携などにより学習活動の充実を図っている。

④　県や市が各学校の取組を支援する施策を推進していること。

・文部科学省指定事業や少人数学習推進事業、算数・数学学力向上推進班による単元評価テストなど、国や県の施策を積極的に活用している。
・学校支援地域本部事業などにおいて、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
・市ＰＴＡ連合会を通じて、学力向上に向けた取組について保護者への理解・啓発を図っている。
・市独自の施策を推進している。
　〇心ふれあうさわやか大仙事業「中学生サミット」（あいさつ、生活習慣の確立、環境教育の推進）
　〇国際教養大学との交流・連携　　〇体験的学習推進事業
　〇学校生活支援員、複式学級支援員、日本語指導支援員等の配置
　〇学力向上推進委員会の開催（学力調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成）
　〇市教職員研究集会、職務別研修会等の開催
　〇学校訪問の実施（教育委員等による学校訪問、指導主事訪問　など）

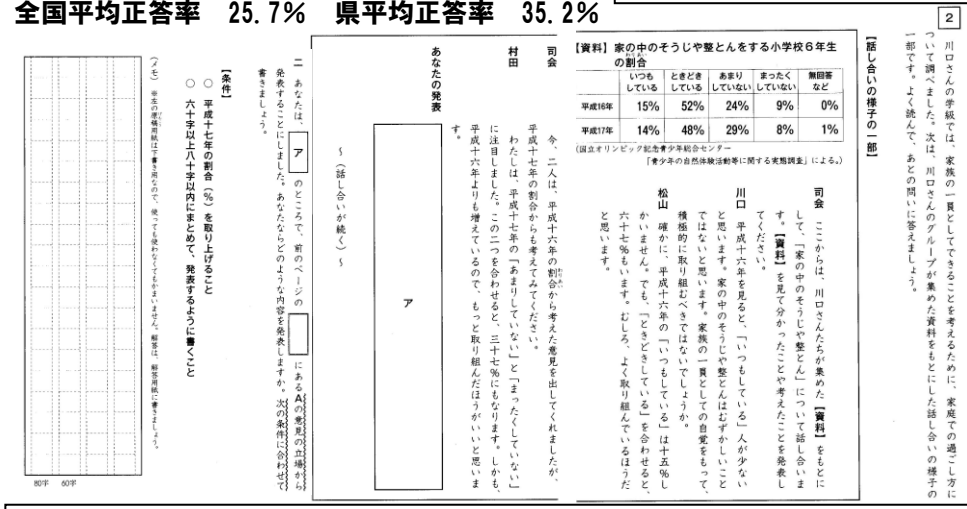
Ⅲ　教科に関する調査結果の考察

３　課題

①「知識・理解」に関する問題についてはおおむね良好である。引き続き思考力の定着を図るため、日ごろから児童生徒のつまずきに応じたきめ細かな指導を積み重ねていく必要がある。
②「活用する力」は全国の結果より良好であるが、一部全国の平均正答率を下回る問題や３回の調査から明らかになった課題もある。早急に視点を明確にした組織的な改善が求められる。

３回の調査で課題がみられた問題（平成21年度版）

【小学校国語Ｂ－２（２）】
全国平均正答率　25.7%　県平均正答率　35.2%



ニ　あなたは、［ア］のところで、前のページの［　　］にあるAの意見の立場から発表することにしました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【条件】
○　平成十七年の割合（%）を取り上げること
○　六十字以上八十字以内にまとめて、発表するように書くこと

（メモ）　半生の使用用紙は書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

80字　60字

司会　今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

村田　わたしは、平成十七年の「あまりしていない」と「まったくしていない」に注目しました。この二つを合わせると、三十七%にもなります。しかも、平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。

あなたの発表

ア

～（話し合いが続く）～

【資料】家の中のそうじや整とんをする小学校６年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

（国立オリンピック記念青少年総合センター「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による。）

【話し合いの様子の一部】

司会　ここからは、川口さんたちが集めた【資料】をもとにして、「家の中のそうじや整とん」について話し合います。【資料】を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口　平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山　確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五%しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると、六十七%もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

２　川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

〈正答（例）〉平成17年の「ときどきしている」は48%もいて、約半分です。「いつもしている」の14%も合わせると、62%もあります。だから、よく取り組んでいると思います。

〈３回の調査の結果から明らかになった課題〉
☆自分の見聞や体験に基づいて考えを書くことは比較的できるが、資料（図表・グラフなど）から情報を読み取り、与えられた条件に沿って事実や考えを書くことに課題がある。
〈誤答の要因（市分析より）〉
◆平成16年度との比較をしている誤答が多く、「17年度の割合（%）を取り上げること」という条件をみたしていない。条件の意図や立場を理解していない。
〈改善に向けて（市分析より）〉
□提示された条件や立場に即して、資料の着眼点を把握しながら読み取る力を養っていきたい。

【中学校数学Ｂ－３】
全国平均正答率　19.1%　県平均正答率　26.9%

（３）美咲さんとお兄さんは，蛍光灯と白熱電球を同じ時間使用したときの総費用（１個の値段と電気代の合計）を比べています。

お兄さん「１個の値段は蛍光灯の方が高いので，最初のうちは蛍光灯の方が総費用も多いね。」
美咲さん「でも，1000時間だと蛍光灯の方が総費用が少ないよ。」
お兄さん「それなら，２つの総費用が等しくなる時間があるね。」

蛍光灯と白熱電球の総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明しなさい。ただし，実際にその時間を求める必要はありません。

〈正答（例）〉
蛍光灯と白熱電球について、使用時間と総費用の関係を直線のグラフに表して、その交点の座標から、使用時間の値をよむ。

〈３回の調査の結果から明らかになった課題〉
☆日常的な事柄を、一次関数の問題としてとらえ、判断する方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
〈誤答の要因（市分析より）〉
◆２事象間の関数関係を見付ける力が不足している。
◆課題解決のために、グラフや式、表などを用いて思考しようとする力が不足している。
〈改善に向けて（市分析より）〉
□課題解決にあたって、既習内容を活用して解決したり、思考の過程を説明したりする時間を充実させたい。

Ⅳ　学習環境に関する調査の結果

１　概要

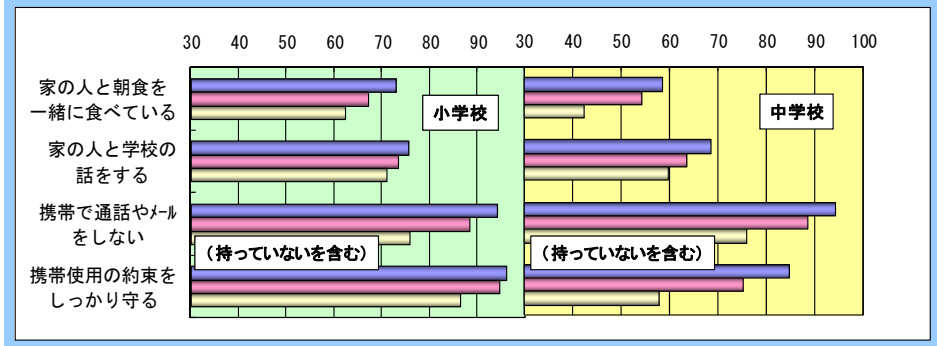
○小・中学校ともに、質問の８割以上の項目において全国や県の平均を上回っており、望ましい習慣が引き続き維持されているものと考えられる。
○今年度新たに追加された授業に係る質問の結果などから、本市の児童生徒が意欲的に授業に取り組んでいると同時に児童生徒が主体の授業スタイルであることも明らかになった。

２　結果

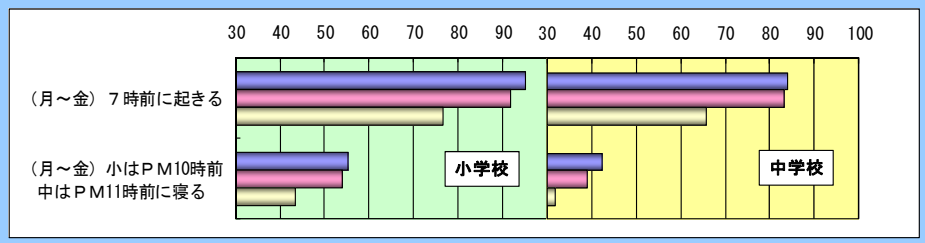
（１）生活習慣

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

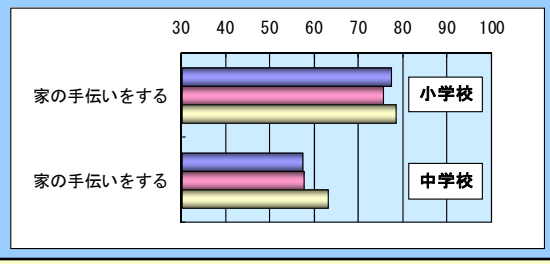
【資料３】生活習慣の様子（小・中学校）



【資料４】起床・就寝時刻（小・中学校）



【資料５】家の手伝い（小・中学校）



○家の人と朝食を一緒に食べたり、学校の話をしたりする児童生徒が全国や県を上回るという結果になった。同様に、起きる時刻や寝る時刻が決まっているという項目も上回っており、温かい家庭環境のもと、基本的生活習慣が身に付いている児童生徒が比較的多いと言える。

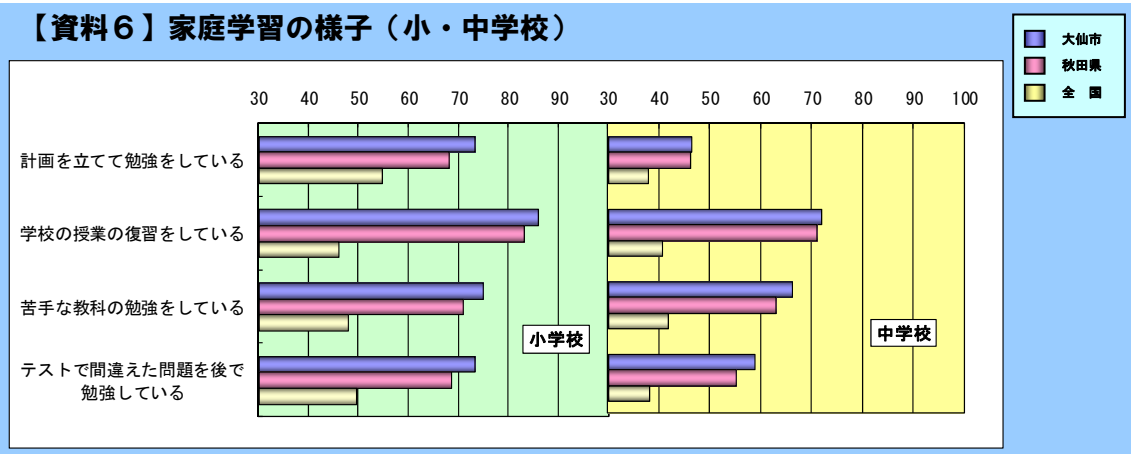
**　さらに、過去２回の調査において課題だった「家の手伝い」をする児童生徒の割合も全国を下回るものの、その差も縮まり、小学校で県を上回るなど徐々に改善の傾向を示している。引き続き、学校・家庭・地域が連携を深め、児童生徒のよりよい環境づくりを推進していく必要があると考えられる。**

Ⅳ　学習環境に関する調査の結果

２－（２）学習習慣

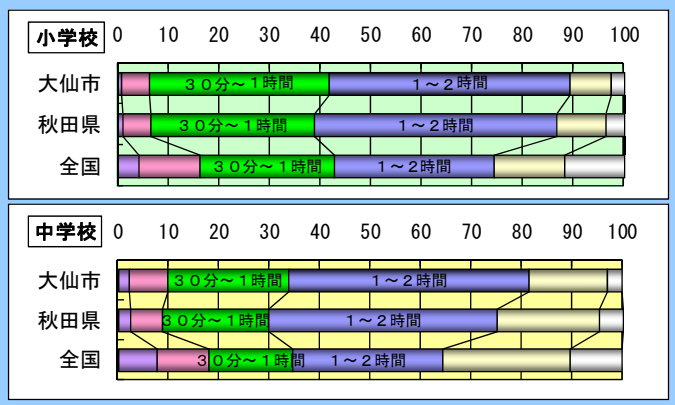
【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）の
市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料６】家庭学習の様子（小・中学校）

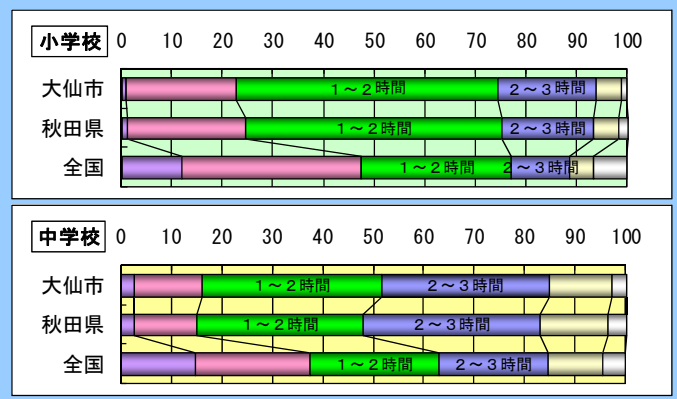


○全国や県に比べ、長時間家庭学習をしている児童生徒の割合は少ないものの、計画を立て苦手な教科の学習や宿題、復習などに取り組んでいる児童生徒が上回っている。
　これらより、家庭学習を計画的に行う習慣が定着している児童生徒が比較的多いと考えられる。

【資料７－１】平日の学習時間（小・中学校）



【資料７－２】休日の学習時間（小・中学校）



【資料８】平均学習時間（小・中学校）

小学校	平日	休日
大仙市	1時間40分	2時間
秋田県	1時間40分	2時間
全　国	1時間30分	1時間40分

中学校	平日	休日
大仙市	1時間40分	2時間20分
秋田県	1時間50分	2時間30分
全　国	1時間40分	2時間

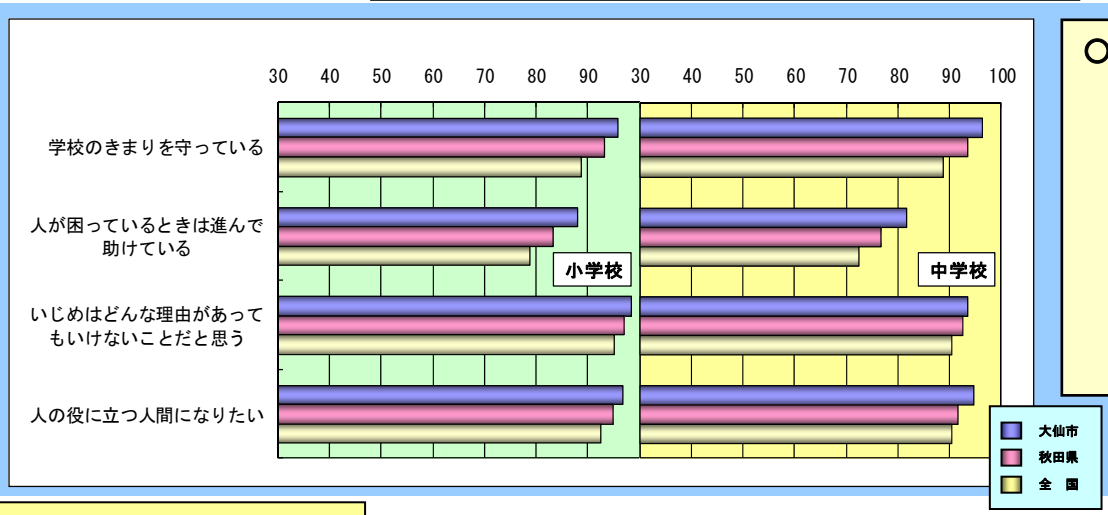
（休日は1時間増）
□ 3時間以上　□ 2～3時間　□ 1～2時間　□ 30分～1時間　□ 30分未満　□ 全くしない

Ⅳ　学習環境に関する調査の結果

２－（３）規範意識

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料９】規範意識や思いやりの心（小・中学校）

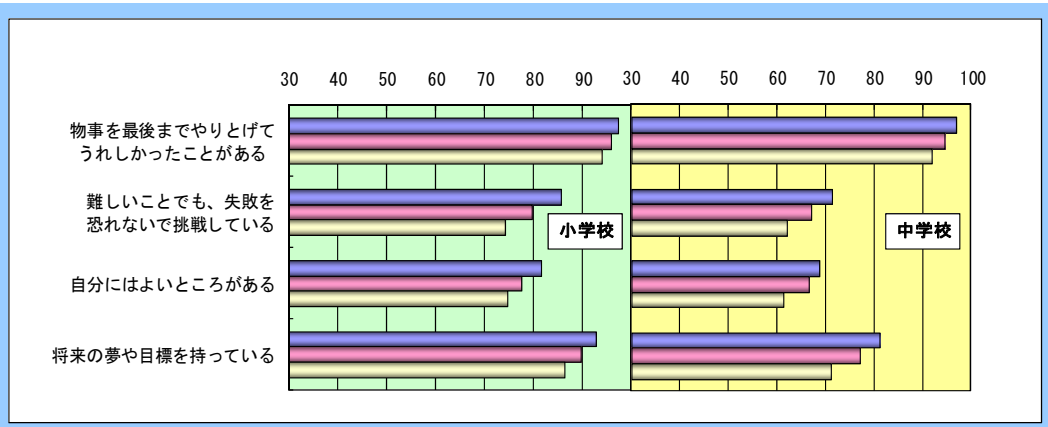


○学校のきまりや友だちとの約束をきちんと守るなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちを分かり、役に立ちたいという気持ちが強く、進んで困っている人を助けたりする思いやりの心も強い。

　各学校の生徒指導や児童（生徒）会活動などの取組の成果であり、家庭や地域での温かいかかわりによって、生きる力が育まれているあらわれと考えられる。

２－（４）達成感や意欲

【資料１０】達成感・成就感や意欲（小・中学校）



○全国や県に比べ、多くの児童生徒が達成感や成就感をもち、難しいことにも挑戦しようとする意欲が強いと言える。

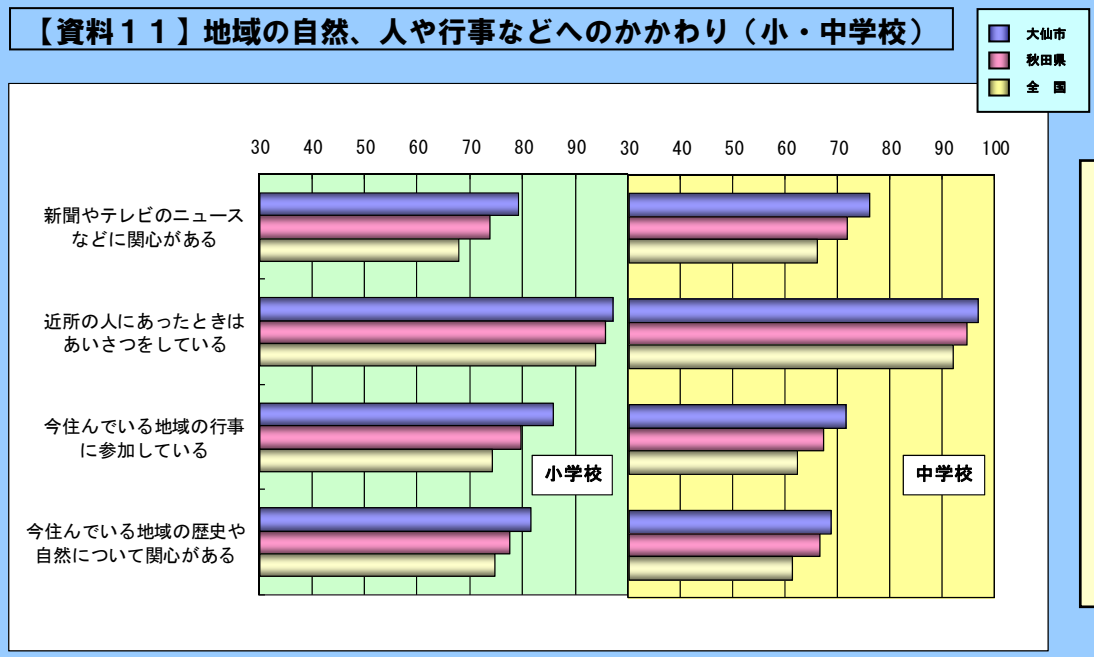
　最後まで問題に取り組もうとする粘り強さの要因にもなっていると考えられる。

Ⅳ　学習環境に関する調査の結果

２－（５）地域への愛着

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）の
市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料１１】地域の自然、人や行事などへのかかわり（小・中学校）



○多くの児童生徒が、住んでいる地域の歴史や自然に関心をもち、進んで行事に参加するなど、住む地域への強い愛着をもっていると言える。

また、近所の人に挨拶をし、地域の出来事にも関心をもっている児童生徒が多い。

総合的な学習の時間などの授業や学校行事で地域の人々の協力を得ながら学習を進めていることが要因と考えられ、児童生徒の学習環境を育む地域の高い教育力のあらわれと言える。

Ⅴ　学習環境と学力調査との相関

１　概要

〇教科の正答率と相関が見られた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況はおおむね良好である。

（１）児童生徒質問紙において、相関（児童生徒の平均正答率が高い）がみられた主な項目

【生活習慣】

〈全国・大仙市ともに相関がみられた項目〉
〇朝食を毎日食べる。　〇学校に持っていくものを事前に確かめている。　〇毎日、同じくらいの時刻に寝る。
〇平日にテレビゲームをする時間が少ない。　〇家の人と学校での出来事について話をする。
〈大仙市にだけ相関が見られた項目〉
〇毎日、同じくらいの時刻に起きる。　〇携帯電話で通話やメールをしない。
〇携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている。

【学習習慣】

〈全国・大仙市ともに相関がみられた項目〉
〇自分で計画を立てて勉強している　〇学校の宿題をしている。　〇学校の授業の復習をしている。
〇苦手な教科の勉強をしている。　〇テストで間違えたところを勉強している。

【授業や調査問題への取り組み】

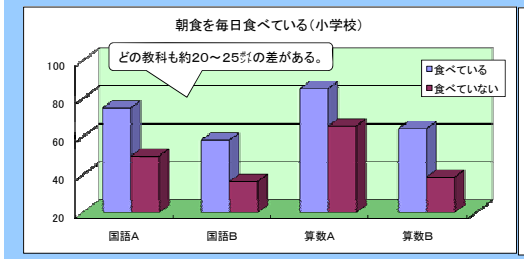
〈全国・大仙市ともに相関がみられた項目〉
〇授業で自分の考えを発表している。　〇授業ではノートを丁寧にとる。（国語にみられた）　〇読書が好きだ。
〇数学の問題であきらめずにいろいろな解き方を考える。　〇授業で習う公式やきまりのわけを理解するようにしている。
〇国語や算数・数学の問題を最後まで答えようと努力した。

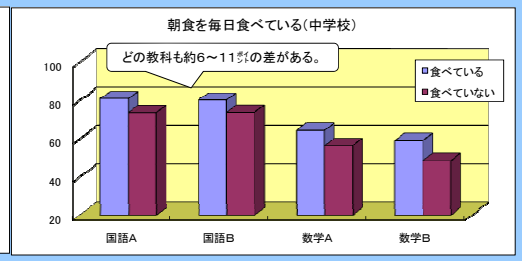
Ⅴ　学習環境と学力調査との相関

２　相関　　**２－（１）家庭での生活**

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と
（あまりあてはまらない＋全くあてはまらない）の比較】

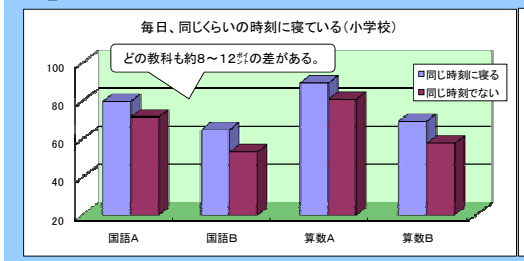
【朝食を毎日食べている】〈質問番号（１）〉　　**【資料１２】**

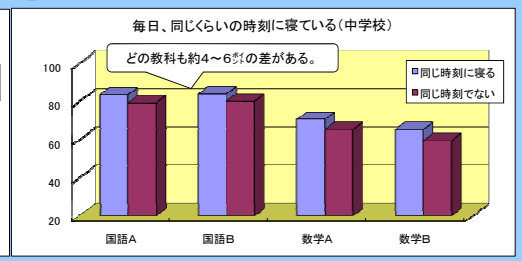




○**朝食を毎日食べていますか**という質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。さらに、小学校において、Ｈ２０年度より１０ポイント以上高くなっている。

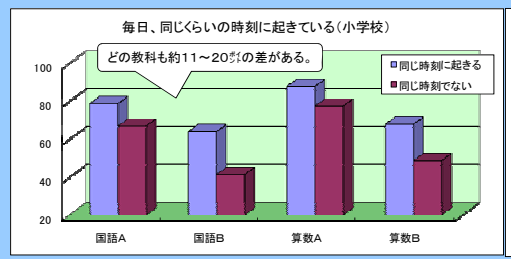
【毎日、同じくらいの時刻に寝ている】〈質問番号（３）〉

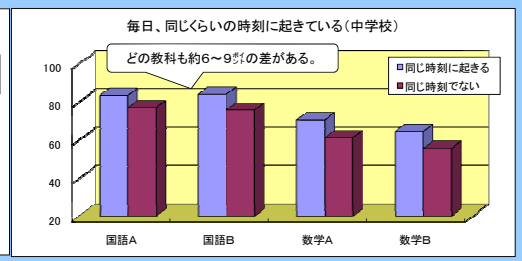




○**毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか**という質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【毎日、同じくらいの時刻に起きている】〈質問番号（４）〉





○**毎日、同じくらいの時刻に起きていますか**という質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

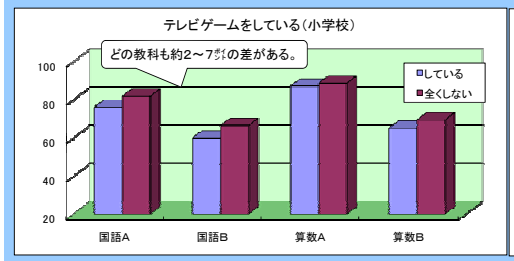
Ⅴ　学習環境と学力調査との相関

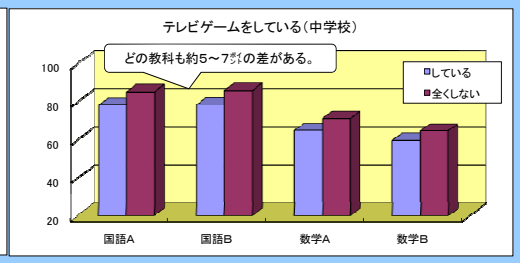
２－（２）ゲームや携帯の使用

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と
（あまりあてはまらない＋全くあてはまらない）の比較】

【資料１３】

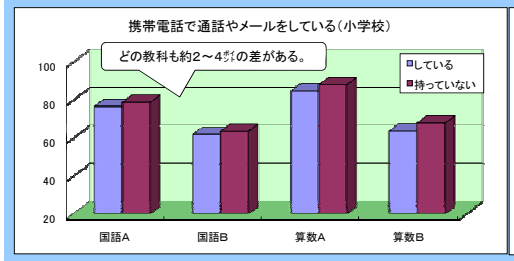
【テレビゲームをしている】　〈質問番号（１３）〉

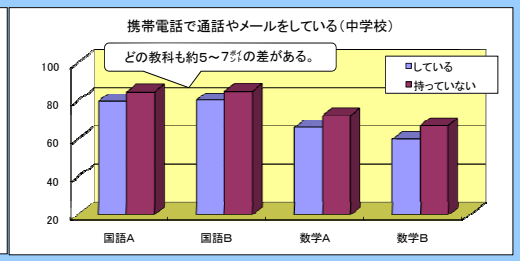




○１日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますかという質問に「全くしていない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。児童生徒ともにＨ２０年度と同程度の差がみられた。

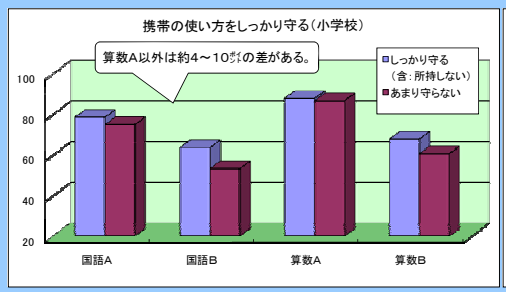
【携帯電話で通話やメールをしている】〈質問番号（１５）〉

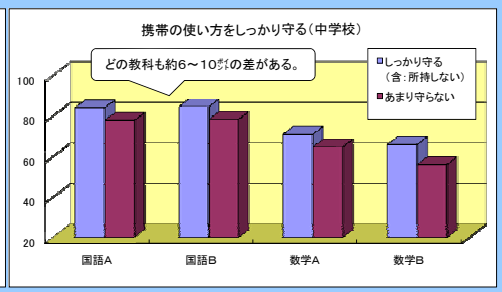




○携帯電話で通話やメールをしていますかという質問に「携帯電話を持っていない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【携帯電話の使い方の約束を守っている】〈質問番号（２５）〉





○携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますかという質問に「携帯電話を持っていない」、「しっかり守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、ほとんどの教科において平均正答率が高い。

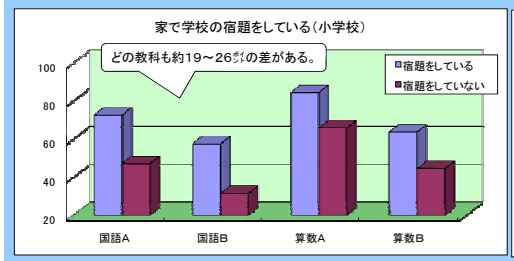
Ⅴ　学習環境と学力調査との相関

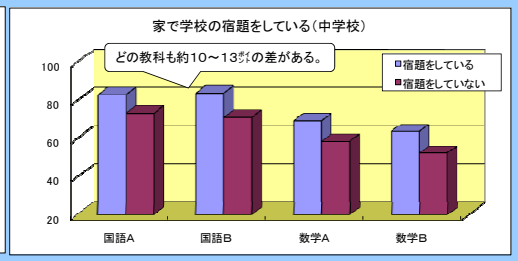
２－（３）家庭学習の習慣

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と
（あまりあてはまらない＋全くあてはまらない）の比較】

【資料１４】

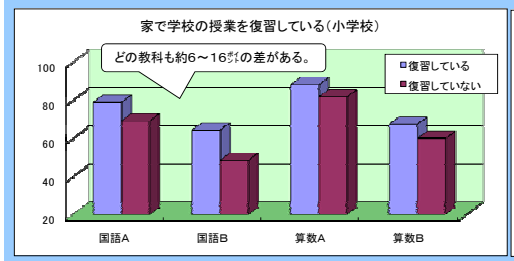
【家で学校の宿題をしている】〈質問番号（２７）〉

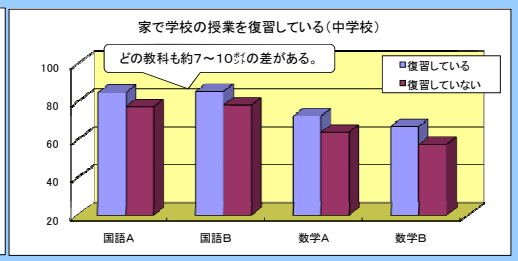




○家で学校の宿題をしていますかという質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

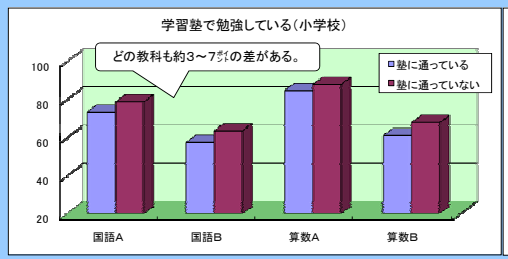
【家で学校の授業の復習をしている】〈質問番号（２９）〉

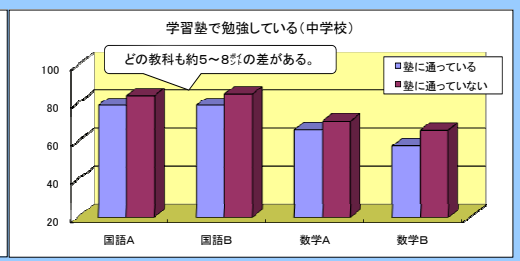




○家で学校の授業の復習をしていますかという質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【学習塾で勉強している】〈質問番号（１８）〉





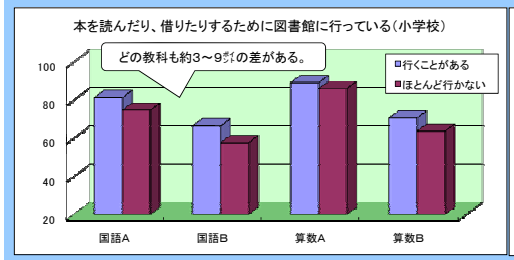
○学習塾で勉強していますかという質問に、「塾に通っていない」と回答した児童生徒が多いが、通塾にかかわらず、家庭学習にしっかり取り組んでいることによって平均正答率が高くなっているものと考えられる。

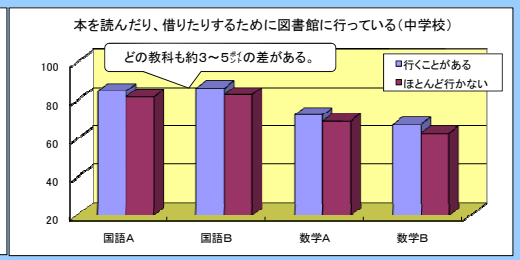
Ⅴ　学習環境と学力調査との相関

２－（４）読書の習慣

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と
（あまりあてはまらない＋全くあてはまらない）の比較】

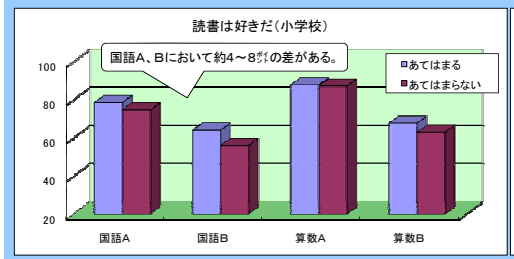
【本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館に行っている】〈質問番号（２０）〉　　**【資料１５】**

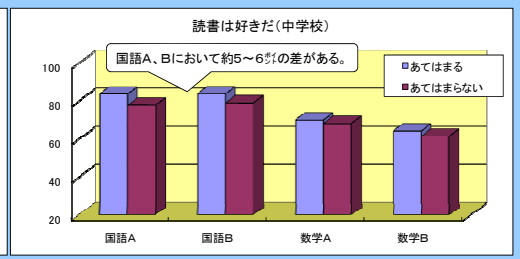




○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館にどれくらい行ってますかという質問に、回数はまちまちではあるが、「行くことがある」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

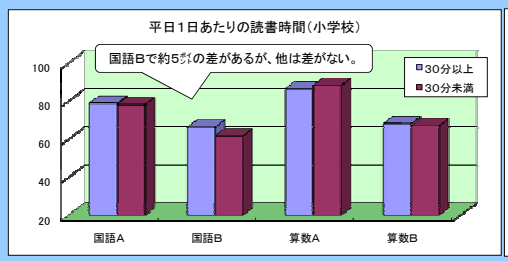
【読書は好きだ】〈質問番号（５５）〉

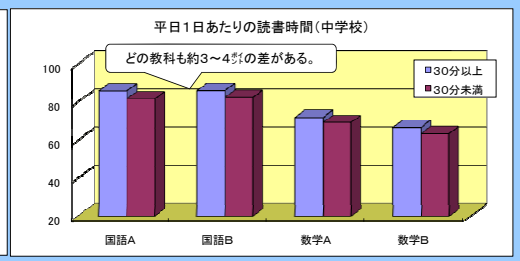




○読書は好きですかという質問に「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【平日の読書時間】〈質問番号（１９）〉





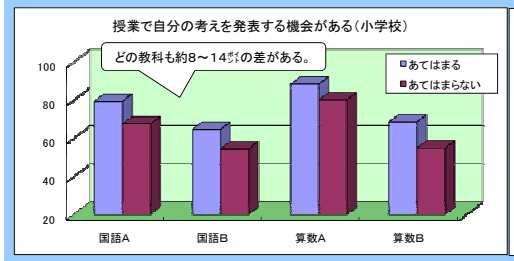
○平日、家や図書館で読書する時間はどれぐらいですかという質問に「３０分以上読書をしている」と回答した児童のグループでは、国語Ｂにおいてのみ平均正答率が高い。
　しかし、中学校においては、「３０分以上読書をしている」と回答した生徒の方がどの教科も平均正答率が高い。

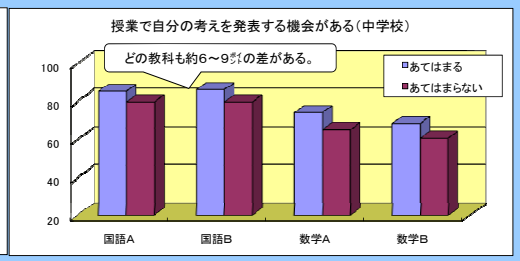
Ⅴ　学習環境と学力調査との相関

２－（５）授業への取り組み

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と
（あまりあてはまらない＋全くあてはまらない）の比較】

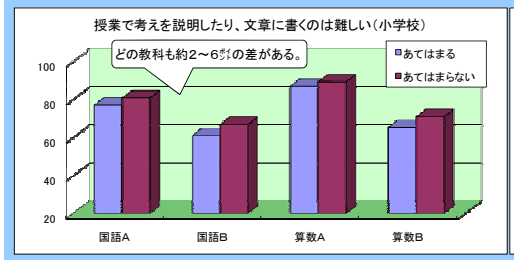
【授業で自分の考えを発表する機会がある】〈質問番号（４７）〉　　**【資料１６】**

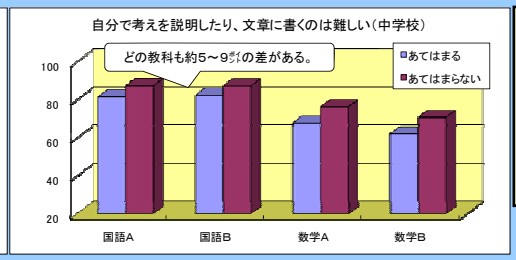




○授業で自分の考えを発表する機会があたえられていますかという質問に「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

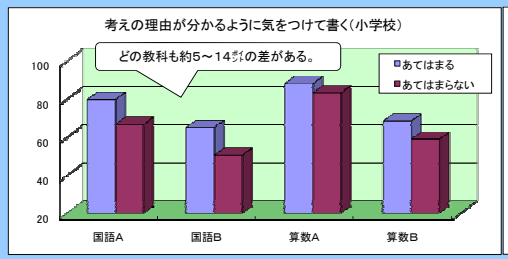
【授業で考えを説明したり、文章に書くのは難しい】〈質問番号（５１）〉

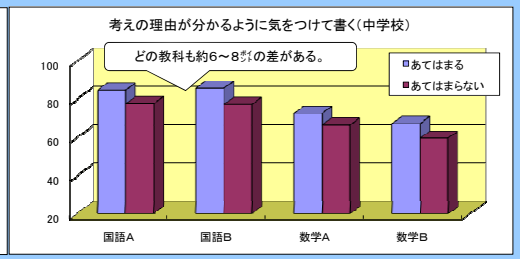




○授業で自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいですかという質問に「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く】〈質問番号（５９）〉





○自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書きますかという質問に「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

Ⅵ　体力調査と学力調査との相関

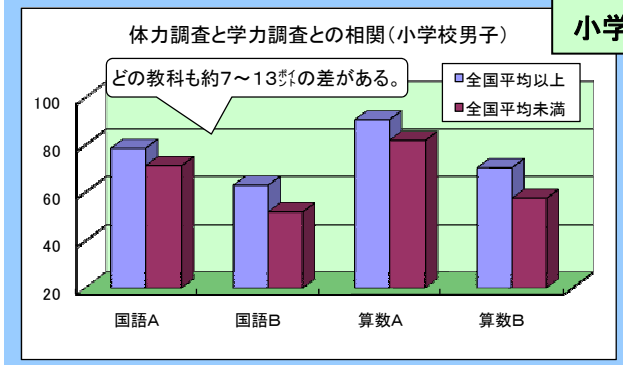
１　概要

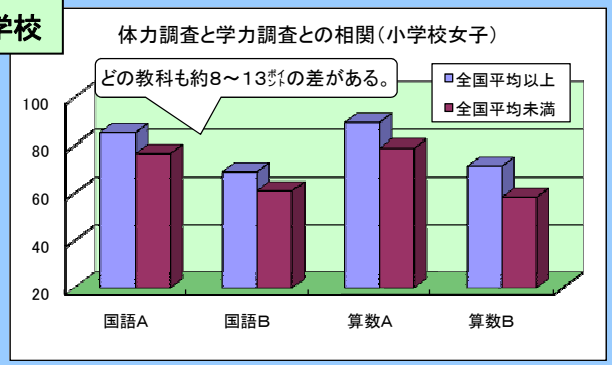
○昨年度実施された全国体力調査と学力調査の相関をみると、小学校の男子と女子において、体力合計点が全国平均を上回る児童のほうが学力調査においてもよい結果を示していることが分かった。中学校においては、本調査の段階では関連が薄いようだった。

【資料１７】平成２０年度全国体力調査と平成２１年度全国学力調査との相関

（抽出率　小学校約70%、中学校約65%）

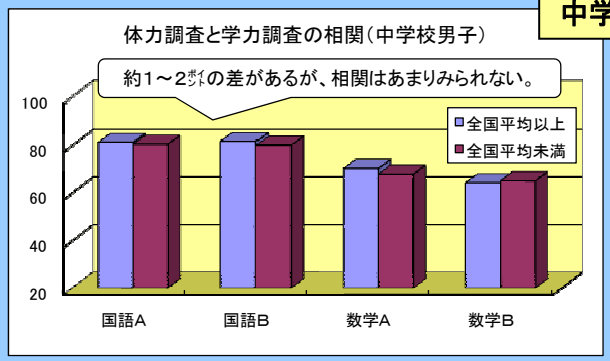
小学校

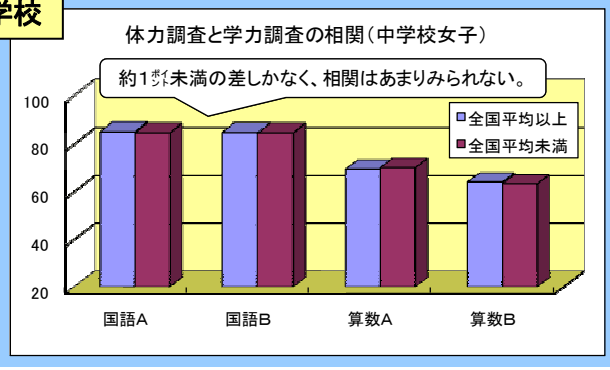




○小学校は、男女ともに体力合計点が全国平均を上回っている児童が、学力調査において７～１３ﾎﾟｲﾝﾄ上回っているという結果になった。男女とも体力・運動能力の高い子どもほど学力が高いことを示している。

中学校





○中学校は、男女とも体力調査と学力調査における関連は薄いようだった。